

裁定取引残高の推移

※推奨ブラウザはIE9以上。他のブラウザでは画面が崩れる場合があります。

😊 にっこり

😞 がっかり

サイトの評価をクリック！

裁定取引残高の推移

金額合計 株数合計

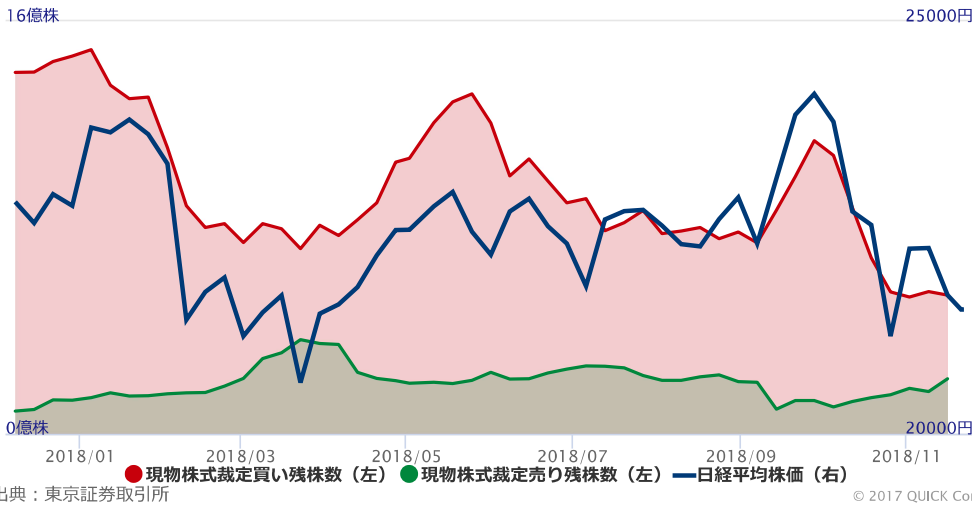
日経平均株価 TOPIX NT倍率 直近1年▼

ホーム ポータル ← → ↺

裁定取引に係る現物ポジション (当限と翌限以降の金額合計)

	売り残	買い残
11/16	0.54兆円	1.11兆円
11/09	0.45兆円	1.15兆円
11/02	0.50兆円	1.07兆円
10/26	0.38兆円	1.06兆円
10/19	0.37兆円	1.37兆円

裁定取引に係る現物株式の残高 (株数合計、週次)



裁定取引に係る現物ポジション (当限と翌限以降の株数合計)

	売り残	買い残
11/16	20億株	5.04億株
11/09	1.52億株	5.16億株
11/02	1.64億株	4.97億株
10/26	1.41億株	5.15億株
10/19	1.30億株	6.39億株

<NQN>◇裁定取引の現物株買い残、3週ぶり減少 16日時点 [2018/11/21 16:05配信]

東京証券取引所が21日発表した16日時点の裁定取引に伴う現物株の買い残高 (期近・期先合計) は3週ぶりに減少した。金額ベースで、前の週に比べて396億円少ない1兆1173億円だった。

この週 (12~16日) の日経平均株価は569円(2.6%)下落した。先物が先行して下げた局面で、割安になった先物を買い戻して割高な現物株を売る裁定解消の取引が増えたとみられる。

現物株の裁定売り残高は2週ぶりに増加した。売り残高は前の週に比べ926億円多い5439億円だった。

(日経QUICKニュース (NQN))

QUICKをご利用の方は以下の画面をご参照ください。

裁定取引にかかわる現物ポジション (週間) STCF500

<QUICK>日経平均・週間ワットUP (12~16日) 569円91銭下落 [2018/11/16 15:55配信]

12~16日の東京株式市場で日経平均株価は569円91銭下落した。3週ぶりの下落。

	始値	高値	安値	終値	前週比較
11/12-16	22269.88	22269.88	21680.34	21680.34	-569.91
11/ 5- 9	21898.99	22486.92	21898.99	22250.25	+6.59
10/29- 2	21149.80	22243.66	21149.80	22243.66	+1,059.06
10/22-26	22614.82	22614.82	21184.60	21184.60	-1,347.48
10/15-19	22271.30	22841.12	22271.30	22532.08	-162.58

※前週比較は前週終値との比較。

日経QUICKニュース社 (NQN) が12~16日に配信した「日経平均大引け」は以下の通り。

[12日]

<NQN>◇日経平均大引け 小反発、19円高 上海株下げ止まりで

12日の東京株式市場で日経平均株価は小幅ながら反発した。前週末比19円63銭 (0.09%) 高の2万2269円88銭で終えた。上海総合指数が下げ止まり、中国の景気減速に対する警戒がやや和らいだ。ファナックなど中国関連株の一部に買い戻しが入り相場を押し上げた。外国為替市場で円安・ドル高が進んだのも支援材料となった。だが、積極的に上値を追う動きは鈍く、戻り売りが出て上げ幅は限られた。

東証1部の売買代金は概算で2兆1529億円 (速報ベース) だった。

(日経QUICKニュース (NQN))

[13日]

<NQN>◇日経平均大引け 大幅反落、459円安 米主力株急落で幅広い銘柄に売り

13日の東京株式市場で日経平均株価は大幅に反落し、大引けは前日比459円36銭（2.06%）安の2万1810円52銭だった。前日12日の米株式市場でハイテクや金融など主力株が軒並み下落し、東京市場でもリスク回避姿勢を強めた海外投資家などの売りが幅広い銘柄に膨らんだ。下げ幅は800円に迫り、心理的節目の2万1500円を下回る場面もあった。一方、下値では円相場の伸び悩みや中国・上海株式相場の上昇を手掛かりにした押し目買いが入り、次第に下げ渋った。

東証1部の売買代金は概算で2兆8253億円（速報ベース）だった。

〔日経QUICKニュース（NQN）〕

【14日】

<NQN>◇日経平均大引け、小幅反発 35円高 押し目買い優勢

14日の東京株式市場で日経平均株価は小幅に反発し、前日比35円96銭（0.16%）高の2万1846円48銭で終えた。前日に500円近く下落したため、好業績銘柄を中心に押し目買いが優勢だった。日本時間11時に発表された中国の10月の小売売上高が伸び悩み、中国景気の減速懸念で下げに転じる場面もあったが、大引けにかけて持ち直した。

東証1部の売買代金は概算で2兆4905億円（速報ベース）と前日を下回り、低調だった。

〔日経QUICKニュース（NQN）〕

【15日】

<NQN>◇日経平均大引け 反落、42円安 アップル関連や金融に売り

15日の東京株式市場で日経平均株価は反落した。前日比42円86銭（0.2%）安の2万1803円62銭で終えた。前日の米株式相場の下落で投資家心理が悪化した。米アップル株の下げが続いて同社に部品を提供する関連株が売られたほか、銀行など金融株の下げも目立ち、相場の重荷となった。だが、中国・上海市場などアジア各国・地域の株価指数が堅調に推移したことで押し目買いも入り、下値は限られた。

東証1部の売買代金は概算で2兆3409億円（速報ベース）だった。

〔日経QUICKニュース（NQN）〕

【16日】

<NQN>◇日経平均大引け 続落、123円安 半導体関連やソフトバンクに売り

16日の東京株式市場で日経平均株価は続落し、前日比123円28銭（0.57%）安の2万1680円34銭とおよそ2週間ぶりの安値で終えた。画像処理半導体（GPU）大手の米エヌビディアなどの慎重な収益見通しを警戒して、東エレクトロニクスや信越化といった半導体関連株が売られた。ファンドを通じてエヌビディアに出資するソフトバンクも下げ、日経平均の重荷となった。週末を前に米中貿易交渉の進展を見極めたいとして買いを手控える投資家が多かった。

東証1部の売買代金は概算で2兆5593億円（速報ベース）だった。

〔日経QUICKニュース（NQN）〕

〔QUICKナレッジ開発本部まとめ〕

▲閉じる

【免責事項について】

本コンテンツの内容および管理については万全を期しておりますが、QUICKがその内容を保証するものではなく、これらによって生じたいかなる損害につきましても、その原因の如何を問わず、QUICKおよびQUICKが指定する者は一切責任を負いません。

本コンテンツに関する一切の知的財産権は、QUICKまたはQUICKが指定する者に帰属し、本コンテンツの改変および複製ならびに本コンテンツの全部または一部を、その方法の如何を問わず、第三者に提供することは一切禁止します。

本コンテンツは予告なく変更、更新、停止することがあります。

本コンテンツは、情報の提供を目的としたものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご利用者ご自身のご判断と責任において行って頂くものといたします。